



コラム ※

性別欄の再考：多様性の尊重とデータ活用の両立を目指して

ジェンダー統計は、性別による不平等や格差を可視化するための重要なツールですが、日本にある公的な統計のうち、すべての調査票に性別欄があるのは28.6%※にとどまっています。また、昨今では、自治体や企業等に提出する書類等において、性別欄をなくす動きが広がっています。この背景には、男女二択を求められることで、トランスジェンダーなどの当事者が心理的負担やアウティング(本人の性のあり方を同意なく第三者に暴露すること)のリスクを抱えることへの配慮があります。

一方で、性別欄を一律に廃止すれば、賃金、管理職比率、進学、政治参加状況などに残る男女格差を可視化し、統計に基づいた政策立案が難しくなります。統計は社会に残る不平等を見つけ、是正するための手段にもなるのです。

大切なのは、「個人の尊重」と「社会の実態把握」を両立させることです。性別を聞く際には、その目的を丁寧に伝え、安心して答えられるよう設問にも工夫する必要があります。海外では出生時の性別と現在の性自認を分けている事例もあります。ジェンダー平等を進めるためには性別のデータが非常に有効ですが、多様な背景を持つ人を置き去りにしない配慮も大切です。

※内閣府男女共同参画局『令和5年度・令和6年度 ジェンダー統計整備状況調査総括報告書』(2025年3月(株)日本能率協会総合研究所) https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/gender_toukei_r05/07.pdf

啓発パネルの貸出し



パネル『統計に見る女性の「仕事」と「生活」のいま』

変化する家族のかたちや、女性という立場における働き方の傾向などをグラフで分かりやすく説明したパネルです。(令和5年更新)

男女共同参画パネルを無料で貸出ししています。市区町村、自治体、団体等で実施される研修会やイベント等にぜひご活用ください。詳しくはHPへ→



情報ライブラリーから

男女共同参画白書(内閣府男女共同参画局編)

男女共同参画白書は、男女共同参画社会基本法の規定に基づき、政府が国会に提出する年次報告書です。

令和8年版の特集は、「仕事や職業キャリアに関する女性の学び直し・暮らしを充実させる男性の学び直し～学び直しの現状と分析～」です。その他「政策・方針決定、雇用」など11分野を通して、男女共同参画社会の形成の現状がまとめられています。本書は、内閣府のホームページで全文を閲覧できますので、ぜひご活用ください。



男女共同参画白書(内閣府男女共同参画局)→



11月12日～25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。

夫・パートナーからの暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していくうえで克服すべき重要な課題です。

運動期間中には、女性に対する暴力の根絶と被害者支援を目的に、協力施設が紫色にライトアップする「パープルライトアップ」や、県民の皆さんが作ったパープルリボンを県内各地でつなぐ「パープルリボンキャンペーン」が実施されます。

また、DVをなくすためには、被害を受けた方への支援だけでなく、暴力を生まないための教育や、暴力を行った人が自らの行動を振り返り、行動を変えていくための取組も重要です。そこで、11月15日(日)に開催する「DV防止フォーラム2026」では、「DV被害者支援のためのDV加害者プログラムとは?～DV加害者は変わるのか～」をテーマに、DV加害者更生支援について、一般社団法人アウェア代表理事の山口のり子さんに講演いただきます。

DVを身近な問題として捉え、暴力のない社会をつくるために、私たちにできることを考えてみませんか。館内において、DV防止をテーマにしたパネル展も開催しますので、ぜひお立ち寄りください。



パープルリボンタペストリー